



理科のおもしろさを伝える授業

～単元に入る前に身近な草花を使って～



①タンポポ



②ホトケノザ



③オニノゲシ

理科専科加配に就いて3年目。今年で教師歴も15年目となり、常に新しことに挑戦しなくてはという気持ちで、自分自身も自然と触れ合い、教材探しと教材づくりに努めています。3年生の理科は、8～9年前程に担任として授業をしました。教科書は「啓林館」でしたので、内容は似ていても単元構成から導入、展開、教材が全然違うように思います。あの時の記憶は当てにできず、教科書をひたすら読み、単元のゴールに向け、導入を考えました。

3年生にとって初めての理科。私も新しい学年の理科を教えるとなり、とても新鮮な気持ちで、理科好きな子どもを増やすスタート地点に立ったようで、よい意味でリセットをかけることができました。

理科って何を学ぶの？というテーマで授業をスタートしました。校舎周辺の草花を採って見せました。

- ①タンポポ ・踏んでも踏んでも、折れずに花を咲かせる強い花。その理由は？ ⇒ 根がなんと50センチ!?
・綿毛になって飛んでいく。その理由は？ ⇒ 「オナモミ」との共通点は？(種を遠くに運ぶ)
- ②ホトケノザ ・「仏の台座」の形が名前の由来。⇒ 観察の視点。よく観察して気づくおもしろさ。
・「春の七草」セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ=コオニタビラコ ⇒ 教師も調べて楽しむ。
・②のホトケノザは七草ではないこと。七草のホトケノザは別物。名前は同じでも種類が違う。
- ③オニノゲシ ・タンポポにそっくりな花。⇒ 比べることの大切さ。
・葉や茎の形や色、つくりを比べると種類の違いに気づく。トゲトゲ。ギザギザ。枝分かれて花がつく。



教科書には「オナモミ」(ひつつきむし)を扱ったページからスタートしています。なかなか見つからなかったのが、児童が学校で見つけやすい植物を紹介しました。また、「オナモミ」はなぜひつつきやすい形をしているのか？土日の宿題で考えてくるように伝えました。どんなことを考えてくるか楽しみです。

ちなみに、オナモミは今や絶滅の危険が増大している種(絶滅危惧II類)であることを知りました。右のオオオナモミという外来種が増えており、両者が近くに生えていると、種がつくりにくくなるそうです。なかなか見つからないわけです。

最後に、花が揺れるのはなぜ？風のか？という発問をして、風とゴムの学習があることなどにも簡単に触れました。

